

都市再生整備計画(第4回変更)

JR加古川線河合地区鉄道駅周辺地区

兵庫県 小野市

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ひょうごけん 兵庫県	市町村名	おのし 小野市	地区名	かこがわせんか わいちくでつどうまきしゅうへんちく JR加古川線河合地区鉄道駅周辺地区	面積	630 ha								
計画期間	平成	16	年度	～	平成	20	年度	交付期間	平成	16	年度	～	平成	20	年度

目標
大目標：住民が創造していくまちづくりの環境整備を行うことによる周辺コミュニティの活性化 目標①住民によるまちづくり活動等を支援することにより、自己責任と自己実現の意識を醸成し、地域コミュニティの再生、形成を図る。 目標②豊かな自然を活用したレクリエーション施設、安らぎの環境を整備することにより、自然との共生等水や緑を生かしたまちづくりを推進する。 目標③地域の財産である鉄道（公共交通）駅周辺の環境整備を行うことにより、観光客及び市民の快適性の向上を図る。
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・河合地区は、市西部の丘陵地に位置し、東側には清流の加古川が流れ、南北に平坦な優良農地が広がっている。また、地区の中心を兵庫県東播磨地域の臨海部と内陸部を結ぶＪＲ加古川線が走り、駅周辺を中心に複数の田園集落が形成されている。微増が続ける市内総人口に反して、モータリゼーションの進行、産業構造の変更等年々減少する鉄道利用者数と共に地区の人口も減少し、周辺地域の賑わいも失われている。このため、利便性の向上にと平成１３年度より取り組んだ電化工事も、本年度内には完了の見込みである。 ・小野市総合計画において、当地区は、豊かな自然環境を保全すると共に、人々にうるおいと安らぎを与える緑地や公園を整備する地域として位置付けられている。 ・平成１３年度には、鉄道事業者、バス事業者と行政で構成するＪＲ加古川線沿線地域活性化推進協議会が設立され、沿線の活性化策が検討されてきた。 ・上記協議会の意見や地元意見により、駅周辺のポケット公園の整備、河合快適の森、夢の森公園等沿線里山を利用したハイキングコースや公園の整備、国土交通省の桜づつみモデル事業としての加古川沿いの桜づつみの整備等沿線の環境整備を計画的に実施してきた。 ・当地区では、整備された里山を管理、整備するボランティアが組織され、住民参加のまちづくり機運が盛り上がっているところである。また、桜づつみの整備においても、桜の木のオーナー制度を取り入れ、オーナーによる木の周辺の除草、ごみ清掃を実施している。 ・平成１４年度からは、沿線駅周辺の自治会がまちづくりアドバイザーの派遣をうけ、住民参加と公民協働のまちづくりについて、勉強会を実施している。 ・都市再生整備計画の策定にあたり、上記自治会の勉強会において意見交換を行った。
課題
当地区は、人口減少、高齢化が進んでおり、地域コミュニティの活力の低下が懸念される。このため、市民生活を安定させながら地域を活性化していくためには、地域住民が自ら創造していくまちづくりの推進が最大の課題である。 ・地域間交流、集落間交流の場としての核施設が必要である。また、農業基盤整備が完了した区域において、農地の荒廃やスプロールの開発が行われる可能性があるため、自己責任と自己実現の原則の基、住民自らが地域の土地利用計画を検討し、良好な農林業の生産環境を保全する区域や集落の区域などを定める必要がある。 ・恵まれた自然環境を有しているが、地域資源として有効に活用されていないのが実情である。里山や清流を地域の誇りとして、内外に発信するための整備を推進し、地区住民主体で管理を行う体制の整備が必要である。 ・ＪＲ加古川線は電化事業を完了しようとしているが、駅施設及び周辺整備が不備であり、駅機能が十分活用されていない。交通環境整備を推進するとともに、利便性、快適性を向上する必要がある。
将来ビジョン(中長期)
豊かな自然環境や鉄道等地域資源を生かし、住民自らが創造する元気あふれる田園集落 ・小野市総合計画において、「豊かな自然環境を保全すると共に、人々にうるおいと安らぎを与える緑地や公園を整備する地域」「公共交通の利用増進を図るため、沿線開発や観光レクリエーション施設の整備を進めると共に、駅前広場、駐車場、鉄道駅舎を利用したコミュニティ空間の創造など、駅周辺の整備を図る地区」と位置付けられている。 ・小野市都市計画マスタープランにおいて、本地区周辺は、「優良農地を保全しながら、自然環境を活かし、安らぎのある施設環境の保全に努める等地域特性を生かしたまちづくりを推進する。ＪＲ加古川線の機能強化と利用促進により地域の活性化を図る必要がある。」とされている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. 交流センターの団体利用回数	回／年	河合地区のまちづくり活動としての交流センター活用回数	個人は別にして周辺地域の3団体が最低月1回は、交流センターを利用することを目標とし、まちづくり活動の推進(発展)を図る。	0	15	36	20
2. 土地利用計画策定地区数	団体	河合地区で土地利用計画が策定できた自治会数	地区の土地利用を検討することにより、地域のことは地域で考える習慣を身に付けさせ、住民参加のまちづくりの推進を目指す。	0	15	8	20
3. 里山整備管理組織の会員数	人	里山整備管理組織の会員数	里山の環境を地元住民自ら整備、管理し続けて行けるよう会員数を増加させる。	100	15	150	20
4. コミュニティ施設等利用者の満足度	%	コミュニティ施設の利用者の満足度(満足度アンケートによる)	利便性の向上を図り、コミュニティ施設及び駅前広場を利用した人の60%以上が満する環境整備を目指す。	10	15	60	20
5. 河合運動広場の利用人数	人	河合運動広場のグラウンドとテニスコートの利用人数	施設整備により利便性の向上を図り、河合運動広場の利用者の増加を目指す。	23818	15	27400	21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針１（まちづくり活動の支援） ・住民主体、参加のまちづくりを推進するため、住民による地区土地利用計画の策定を支援する。 ・住民主体、参加のまちづくりの推進と地域住民の交流のために、まちづくりの拠点として駅にコミュニティ交流施設を設置すると共に地元住民が維持管理できる体制を整える。	高次都市施設（基幹事業／地域交流センター） 地域創造支援事業（提案事業／ぼっぼ青野ヶ原、JR粟生駅駅舎等整備） まちづくり活動支援（関連事業／土地利用調整システム総合推進事業等）
整備方針２（自然を生かした環境整備） ・桜づつみ、里山等の豊かな自然を活用したレクリエーション施設・スポーツ施設等を整備することにより、健康と安らぎの空間づくりを行うと共に、地元住民自ら整備、管理することができる環境、体制づくりを行う。 なお、河合運動広場については、地域防災計画に広域避難場所として位置付けされている。	地域生活基盤施設（基幹事業／広場） 高質空間形成施設（基幹事業／緑化施設等） 地域創造支援事業（提案事業／森林ボランティア活動支援） まちづくり活動支援（関連事業／土地利用調整システム総合推進事業等）
整備方針３（交通環境の改善） ・鉄道駅利用者（市民、観光客）の利便性の向上を図るため、駅舎及び駅前広場を整備し滞留や憩いの駅前空間づくりを行う。	地域生活基盤施設（基幹事業／広場、駐車場、駐輪場） 高質空間形成施設（基幹事業／緑化施設等） 地域創造支援事業（提案事業／JR粟生駅駅舎等整備）
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地域では、里山等の豊かな自然を活用したレクリエーション施設等を継続的に地元住民自ら整備、管理することができるよう、環境（森林）ボランティア活動が行われている。今後も、精力的にボランティアの募集を行い、整備管理体制を確立していく予定。 また、市民参画による「ガーデニングシティおの」の推進を図るため、公園の花壇や駅周辺、橋など公共施設に植栽や植栽の維持管理を行っているガーデニングボランティアの活動も引き続き拡大していく。平成１６年度には、ガーデニングボランティアが苗木を育成するための育苗施設を設置予定。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、市役所と地域のボランティア団体、地域の自治会が協働して、毎年、事業成果についての評価や事業の進め方の改善について検証する。その結果については、随時市民に情報公開する。	

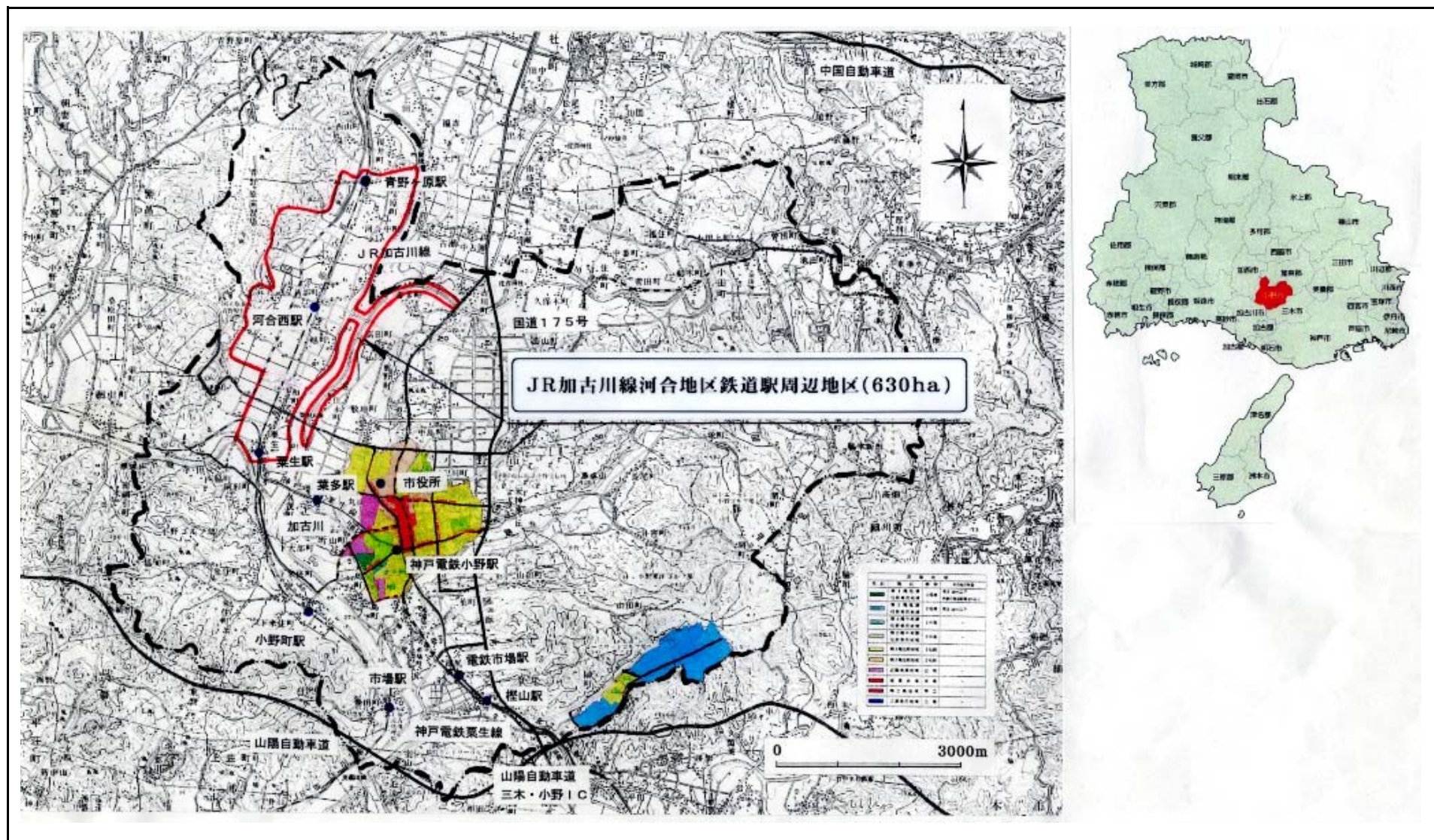
交付対象事業費	778	交付限度額	321	国費率	0.413
---------	-----	-------	-----	-----	-------

事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設		—	小野市	直	—	H17	H20	H17	H20	380	380	380		380
高質空間形成施設		—	小野市	直	—	H16	H20	H16	H20	300	300	300		300
高次都市施設		—	小野市	直	—	H16	H16	H16	H16	24	24	24		17
既存建造物活用事業		—			—									
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										704	704	704	0	697

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	環境(森林)ボランティア活動支援	河合地区	小野市	直	—	H16	H20	H16	H20	5	5	5		5
	ぼっぼ青野ヶ原整備	青野ヶ原町	小野市	直	69.32㎡	H16	H16	H16	H16	22	22	22		17
	JR粟生駅駅舎等整備	粟生町	小野市	直	126㎡	H18	H20	H18	H20	59	59	59		59
事業活用調査		—			—									0
		—			—									0
まちづくり活動推進事業		—			—									0
		—			—									0
合計										86	86	86	0	81

[illegible]

JR加古川線河合地区鉄道駅周辺地区(兵庫県小野市)	面積	630 ha	区域	復井町、西山町、青野ヶ原町、河合中町、河合西町、新部町、旭町、昭和町、三和町、粟生町、高田町、喜多町、古川町、住永町の各一部
---------------------------	----	--------	----	--



JR加古川線河合地区鉄道駅周辺地区(兵庫県小野市) 整備方針概要図

目標	住民が創造していくまちづくりの環境整備を行うことによる周辺コミュニティの活性化	代表的な指標	交流センター団体利用回数 (団体)	0	(15年度)	→	36	(20年度)
			里山整備管理組織の会員数 (人)	100	(15年度)	→	150	(20年度)
			コミュニティ施設等利用者の満足度 (%)	10	(15年度)	→	60	(20年度)

